

ひまわりユニット 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890600032		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム勝山荒土【ひまわり】		
所在地	〒911-0043 福井県勝山市荒土町新保10-109-2		
自己評価作成日	平成25年7月9日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者様も家族様もスタッフも地域も皆が安心できるホーム」のホーム目標を全員で決め、意識をして取り組んでいます。入居者様がその人にとって当たり前生活を当たり前できるように生活歴や思いの把握を行ない、実現に取り組んでいます。家族様に対しても、家族会を結成し、家族様の意見を率直に伺える機会を届け、ホームの運営に積極的に取り組んでいます。地域に関しても、地域の行事には積極的に参加したり、ホームの行事に参加して頂いたりして、地域の住民として地域に馴染めるよう取り組んでいます。最近では、入居者様の活動の機会を多くする為、社会活動など積極的に参加しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は恐竜博物館で知られている勝山市市街地の静かな場所に立地している。事業所は会社の理念を掲げながら、独自の目標「利用者、家族、地域、皆が安心できるホーム」を掲げ、利用者があたり前の生活をあたり前に出来るよう、一人ひとりを尊重しながら思いや意向の把握に取り組んでいる。また、中学生と一緒にゴミ拾いをしたり、小学生の下校時の見守り声かけ活動など利用者の能力を活かしながら地域との交流に努めている。避難訓練の際に婦人会や住民の参加協力を呼びかけたところ多くの協力を得るなど地域と良好な関係を築いている。酒の好きな方には適量の晩酌も可能としたり、喫煙室も設けるなど利用者主体でサービス向上に取り組んでいる事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員で決めた今期の目標に対して、全職員が目のつく所に掲示しており、全体会議等でも目標に対しての進捗具合を確認している。	会社の運営理念を掲げながら、事業所独自の目標を全職員で作成し玄関や事務所等目のつくところに掲示している。日々のサービス場面で常に振り返り、月1回行われる会議で理念・目標の共有と進捗状況を確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の運動会や、祭り、文化祭などの地域野行事には参加させて頂いている。又、ホームの納涼祭の行事には多くの地域の方が参加してくださっている。	自治会に加入しており、地域の行事や社会奉仕活動にも積極的に参加している。日常的な散歩などには住民に挨拶を交わしたり話をしたりして交流している。また、北部中学校の生徒と一緒にゴミ拾いをしたり、荒土小学生の下校時の見守り隊に参加するなど地域交流を大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の持っている力を発揮する為、外に出での活動に積極的に取り組んでいる。交通安全呼びかけ運動やゴミ拾い、登下校見守り隊の活動を行った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内で起きた事故や取り組みに対して地域の代表や行政職員にアドバイスを頂いている。又、地域との関係をより密にするために、どうしたらいいか話し合いを行っている。	地域包括支援センター職員や市職員、区長、民生委員、老人会会長の参加を得て2か月毎に開催している。会議では利用状況や取組を報告し、委員から積極的に意見を得るなど良好な関係を築いている。なお、利用者家族の参加はないため、家族会で会議内容を知らせている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	週に1度は市町村担当者の所へ訪問し、ホームの実情や相談等を行っている。	週1度、市役所に向かう際に必ず窓口立ち寄り担当者に報告や連絡、運営に関する問題点など気軽に相談できる関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間を決めて玄関の施錠をしているが、外に出たい入居者様がいたら、鍵を開けて出て頂いている。身体拘束に関しての研修も行ない、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、言葉遣いに対する研修会も行ない、職員同士で注意し合える環境を作っている。	身体拘束に関する研修や事業所の学習会を通して身体拘束をしないケアの意識共有を図っている。なお、現在職員の手うすになる午後1～4時の時間帯は施錠しているが、職員は施錠の弊害を理解しており、全体会議や勉強会等でこのことについて話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解、浸透や遵守に向けた取り組みを行なっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年、初めて入居者様が権利擁護を活用された。研修は出来ていないので、研修の機会を設け権利擁護や成年後見制度について知識を深める。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり、丁寧に説明をする。料金やホーム内で生活をしていて起こり得るリスク、重度化や医療連携体制の実施などについては詳しく説明し、同意を得ている。又、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲も説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を結成し、家族様の率直な意見や要望等を聞ける機会を設け、運営に活かしている。また、介護相談員を2ヶ月に1回派遣して頂き、入居者様が訴えられた事の報告を受け、改善している。	家族会を一昨年、結成し家族との交流を深めている。面会の際にも必ず話しかけ、意見や要望等を聞いている。また、利用者や職員とのコミュニケーションを大切にしながら何でも話せるような雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や勉強会を月に1度は開催し、職員の意見を聞く場を設けている。また、日頃より、職員とのコミュニケーションを密に取るように心掛けている。	月1回全体会議や勉強会の際に、職員とのコミュニケーションを図り気づきや提案を聞いて運営に反映している。また、リーダーが職員の様々な思いを聞き、ホーム長に伝え、楽しく働ける職場作りに努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や休憩時間についても適切にできるように常に業務改善を行っている。又、職員が参加したい外部の研修には積極的に参加できる体制を作っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、勉強会を実施している。研修後には報告書を書いていただき、職員の理解度を把握している。また、職員の受けたい研修内容を聞き出し、聞き出した研修を受けられる体制を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会等を通じて同業者との交流を図っている。また、その中で勉強会や情報交換会を行ない、職員のレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用については、相談があった時は、必ず本人様にとって心身の状態や本人様の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努める。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているのを理解し、事業としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況などを確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で分かち合い、共に支える為に家族で同じような思いで支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、不安や喜びなど知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支える関係づくりに努めている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に家族様と同じような思いで支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事等に参加し、馴染みの方との交流を図れるようにしている。	入居前の人間関係や社会との関係をセンター方式で把握し、それをもとに知人、友人等に電話や手紙などで連絡を取るなど馴染みの関係が継続出来るように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面を作るなど、入居者様の関係性が上手いようにスタッフが調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にホームでの生活をまとめた記録を作成し、次に利用されるサービス事業所に情報の提供を行っている。また、ホームの行事等には参加の案内をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握を努めている。言葉や表情などから、その意思を推し量ったり、それを確認するようにしている。意思疎通が困難な方にはご家族や知人から話を聞くようにしている。センター方式で記録に残し、全スタッフが閲覧できるようにしている。	センター方式シートの記録から見えてきた部分と日々関わりの中の言動や表情などから、本人の思いや意向を汲み取るようにしている。また、意思疎通の困難な場合は家族から聴いて推測している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様自身の話や、家族、知人などの訪問時など、少しずつ把握に努めている。センター方式で記録に残し、全スタッフが閲覧できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様1人1人の生活習慣を理解し、行動や動作などから感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様には日々の関わりの中で思いや意見聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスをしている。	毎月モニタリングを行っており、日々関わりの中かで見えてきた家族や本人の意向や思いをカンファレンスで話し合っており、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。なお、利用者の心身に変化があればその都度見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者様の状態変化には個々のケア記録を記載し、職員間の情報交換を徹底している。個別の記録を介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の状況に応じて、通院や送迎などが必要な支援は柔軟に対応したり、個別対応を行ない、個々の満足度を高めるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域との暮らしを続けていけるように、区長や民生委員との意見交換をする機会を設けている。また、本人様一人一人の力を発揮する為に地域活動に積極的に取り組んでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族様が希望するかかりつけ医となっている。また受診や通院はご本人やご家族の希望に応じている。基本的には家族同行の受診となっているが、出来ない時は職員が代行している。利用契約時に説明をしている。	本人、家族の希望する医師をかかりつけ医としている。受診や通院は、原則家族同行としているが都合の悪い時は職員が同行している。また、受診ノートを使ってかかりつけ医と情報共有を図っている。このほか、月2回、協力病院による往診もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に入居者様、健康状態や状態変化に応じた支援を行える様にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人様への支援方法に関する情報を提供し、頻繁に職員がお見舞いに行くようにしている。家族様との情報交換を行ない、早期に退院できるように取り組んだ。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応しえるケアについての説明を行っている。本人様の気持ちを大切に、家族と話し合い、本人様が安心して終末期を迎えられるように支援している。カンファレンス等でも今後、重度になりえるリスク等家族様をはじめスタッフにも話し合いをおこなっている。	契約時に事業所の方針を説明している。重度化した場合や終末期が予想された時点で家族、医師、看護師、職員が対応を話し合う方針である。なお、看取り指針はあるが職員間との共有までには至っていない。	今後事業所の指針に添って研修や勉強会で、その時々事業所の力量や体制について把握し、事業所としての支援方法を職員間で話し合い共有される事を期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、普通救命講習の受講を終了。マニュアルも周知し徹底している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル絵参加し、年に2回以上避難訓練を実施している。又、地区との合同の避難訓練も実施した。	消防署の協力を得た訓練を含め、年4回、避難訓練を実施している。今年度には初めて婦人会や高齢者クラブ等に協力を呼びかけ、近隣にも口頭で依頼したところ多くの住民の参加を得ることができた。また、非常時用の食料・備品も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりをリーダーとホーム長が点検し、入居者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	利用者一人ひとりを尊重し、状況に合わせた話し方やトイレ誘導、声かけなど穏やかに職員が対応している事が確認できた。なお、個人情報も適切に管理している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様自身の意思を尊重し、選択肢を設けての声かけを行っている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは作っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。1人1人の体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重し、できる限り個別性のある支援を行っている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え時や外出時は本人様の意向に任せてある。見守りや介助が必要な際には手伝うようにしている。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等は入居者様と一緒にやっている。	本社からの献立表を基に買い物に出かけており、職員が利用者と同じテーブルに着いて会話しながら同じものを食べるなど、利用者が食事を楽しめるよう支援している。利用者は職員と一緒に盛り付けや片付けなどに関わっている。なお、お酒の好きな方にはほどほどの晩酌も認めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し食事量や水分量が少ない時には申し送り時に報告し、情報の共有を図ることができる。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行っている。入居者様によって見守りをしたり、介助したりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者様にも時間を見計らって、誘導する事により、なるべくトイレで排泄はできるように支援している。ケアプランにも反映している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心がけている。なお、失禁時にはさりげなく対応し、利用者の羞恥心に配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分を多くとってもらったり、体を動かしたり、ヨーグルトや乳酸菌製品を利用し、なるべく自然排便はできるようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望にあわせて入浴して頂いている。入居者様同士、一緒に入りたいと言われるには一緒に入って頂いている。	利用者の希望する時間帯にゆっくりと入浴でき、入浴を楽しめるよう支援している。また、夜の入浴にも対応しており、仲の良い利用者同士が入浴することを大切にしている。なお、風呂場、脱衣場も掃除が行き届いて清潔であった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えている。1人1人の体調や表情、希望等を考慮してゆっくり、休息が取れるように支援していきます。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	センター方式等で薬の把握を行ない、月に1回は往診や受診を受け、症状の変化の把握を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人、1人の力が十分に発揮できるように、ホーム内だけでなく、外での活動にも積極的に取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分に応じて、季節の代わりに肌で感じてもらい心身の活性に繋がるよう日常的に散歩や買い物に取り組んでいる。本人様が行きたいところにいける様に積極的に支援している。	気候の良いときに利用者の体調に配慮しながら希望に応じて日常的な外出や散歩を行っており、利用者の外気浴や気晴らし、地域とのふれあいの機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、事務所の金庫にて管理をさせても立っている。しかし、外出時など訴えがある方には自分でお金を持って頂き、お金を払ってもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話や手紙など、やりとりがしやすい雰囲気を整えている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗の洗う音、ご飯の炊ける臭い、Pんがくやおやつに季節的なものを取り入れるようにしている。	食堂を兼ねた共用空間は広々として採光がよく明るい。畳の間も設けられ、ソファも置かれ気の合った者同士がくつろげる空間となっている。また、周りには利用者の作品が多く飾られ、家庭的な雰囲気となっており、利用者の表情も明るい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下に椅子を設置し、1人で過ごしたり、仲のいい人同士集まって過ごしたりできるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こちらで用意してある、淡水外は、今まで家で使われていたものをそのままxつつて来て頂いている。本人が家のように居心地よく過ごせるように支援している、	入所の際、居室に馴染みの物品を持ち込む重要性を説明しており、利用者の思い出の写真や馴染みの品々が持ち込まれ、自身の作品も多数飾られ利用者の個性に応じた空間となっている。なお、温度計が設置され、室温にも配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせて、移住環境が適しているか見直し、安全確保と自立へ配慮をしている。		

ひまわりユニット 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890600032		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム勝山荒土【さくら】		
所在地	〒911-0043 福井県勝山市荒土町新保10-109-2		
自己評価作成日	平成25年7月9日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	平成25年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者様も家族様もスタッフも地域も皆が安心できるホーム」のホーム目標を全員で決め、意識をして取り組んでいます。入居者様がその人にとって当たり前前の生活を当たり前前にできるように生活歴や思いの把握を行ない、実現に取り組んでいます。家族様に対しても、家族会を結成し、家族様の意見を率直に伺える機会を届け、ホームの運営に積極的に取り組んでいます。地域に関しても、地域の行事には積極的に参加したり、ホームの行事に参加して頂いたりして、地域の住民として地域に馴染めるよう取り組んでいます。最近では、入居者様の活動の機会を多くする為、社会活動など積極的に参加しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以降、【ひまわり】と同じ。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員で決めた今期の目標に対して、全職員が目のつく所に掲示しており、全体会議等でも目標に対しての進捗具合を確認している。	以降、【ひまわり】と同じ。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の運動会や、祭り、文化祭などの地域野行事には参加させて頂いている。又、ホームの納涼祭の行事には多くの地域の方が参加してくださっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の持っている力を発揮する為、外に出る活動に積極的に取り組んでいる。交通安全呼びかけ運動やゴミ拾い、登下校見守り隊の活動を行った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内でおきた事故や取り組みに対して地域の代表や行政職員にアドバイスを頂いている。又、地域との関係をより密にするために、どうしたらいいか話し合いを行っている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	週に1度は市町村担当者の所へ訪問し、ホームの実情や相談等を行っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間を決めて玄関の施錠をしているが、外に出たい入居者様がいれば、鍵を開けて出て頂いている。身体拘束に関しての研修も行ない、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、言葉遣いに対する研修も行ない、職員同士で注意し合える環境を作っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解、浸透や遵守に向けた取り組みを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年、初めて入居者様が権利擁護を活用された。研修は出来ていないので、研修の機会を設け権利擁護や成年後見制度について知識を深める。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり、丁寧に説明をしている。料金やホーム内で生活をしていて起こり得るリスク、重度化や医療連携体制の実施などについては詳しく説明し、同意を得ている。又、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲も		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を結成し、家族様の率直な意見や要望等を聞ける機会を設け、運営に活かしている。また、介護相談員を2ヶ月に1回派遣して頂き、入居者様が訴えられた事の報告を受け、改善している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や勉強会を月に1度は開催し、職員の意見を聞く場を設けている。また、日頃より、職員とのコミュニケーションを密に取るように心掛けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や休憩時間についても適切にできるように常に業務改善を行っている。又、職員が参加したい外部の研修には積極的に参加できる体制を作っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、勉強会を実施している。研修後には報告書を書いていただき、職員の理解度を把握している。また、職員の受けたい研修内容を聞き出し、聞き出した研修を受けれる体制を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会等を通じて同業者との交流を図っている。また、その中で勉強会や情報交換会を行ない、職員のレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用については、相談があった時は、必ず本人様にとって心身の状態や本人様の思いに引き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努める。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているのを理解し、事業としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況などを確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で分かち合い、共に支える為に家族で同じような思いで支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、不安や喜びなど知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支える関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に家族様と同じような思いで支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事等に参加し、馴染みの方との交流を図れるようにしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面を作るなど、入居者様の関係性が上手くいくようにスタッフが調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にホームでの生活をまとめた記録を作成し、次に利用されるサービス事業所に情報の提供を行っている。また、ホームの行事等には参加の案内をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握を努めている。言葉や表情などから、その意思を押し量ったり、それを確認するようにしている。意思疎通が困難な方にはご家族や知人から話を聞くようにしている。センター方式で記録に残し、全スタッフが閲覧できるようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様自身の話や、家族、知人などの訪問時など、少しずつ把握に努めている。センター方式で記録に残し、全スタッフが閲覧できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様1人1人の生活習慣を理解し、行動や動作などから感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様には日々の関わりの中で思いや意見聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスをしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや入居者様の状態変化には個々のケア記録を記載し、職員間の情報交換を徹底している。個別の記録を介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の状況に応じて、通院や送迎などが必要な支援は柔軟に対応したり、個別対応を行ない、個々の満足を高めるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域との暮らしを続けていけるように、区長や民生委員との意見交換をする機会を設けている。また、本人様一人一人の力を発揮する為に地域活動に積極的に取り組んでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族様が希望するかかりつけ医となっている、また受診や通院はご本人やご家族の希望に応じている。基本的には家族同行の受診となっているが、出来ない時は職員が代行している。利用契約時に説明をしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に入居者様、健康状態や状態変化に応じた支援を行える様にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人様への支援方法に関する情報を提供し、頻繁に職員がお見舞いに行くようにしている。家族様との情報交換を行ない、早期に退院できるように取り組んだ。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応しえるケアについての説明を行っている。本人様の気持ちを大切に、家族と話し合い、本人様が安心して終末期を迎えられるように支援している。カンファレンス等でも今後、重度になりえるリスク等家族様をはじめスタッフにも話し合いをおこなっている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、普通救命講習の受講を終了。マニュアルも周知し徹底している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル絵参加し、年に2回以上避難訓練を実施している。又、地区との合同の避難訓練も実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりをリーダーとホーム長が点検し、入居者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様自身の意思を尊重し、選択肢を設けての声かけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは作っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。1人1人の体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重し、できる限り個別性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え時や外出時は本人様の意向に任せてある。見守りや介助が必要な際には手伝うようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等は入居者様と一緒にやっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し食事量や水分量が少ない時には申し送り時に報告し、情報の共有を図ることができる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行っている。入居者様によって見守りをしたり、介助したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者様にも時間を見計らって、誘導する事により、なるべくトイレで排泄はできるように支援している。ケアプランにも反映している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分を多くとってもらったり、体を動かしたり、ヨーグルトや乳酸菌製品を利用し、なるべく自然排便はできるようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望にあわせて入浴して頂いている。入居者様同士、一緒に入りたいたいと言われるには一緒に入って頂いている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えている。1人1人の体調や表情、希望等を考慮してゆっくり、休息が取れるように支援していきます。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	センター方式等で薬の把握を行ない、月に1回は往診や受診を受け、症状の変化の把握を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人、1人の力が十分に発揮できるように、ホーム内だけでなく、外での活動にも積極的に取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分に応じて、季節の代わりを肌で感じてもらい心身の活性に繋がるよう日常的に散歩や買い物に取り組んでいる。本人様が行きたいところにいける様に積極的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、事務所の金庫にて管理をさせても立っている。しかし、外出時など訴えがある方には自分でお金を持って頂き、お金を払ってもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話や手紙など、やりとりがしやすい雰囲気を整えている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗の洗う音、ご飯の炊ける臭い、Pんがくやおやつに季節的なものを取り入れるようにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下に椅子を設置し、1人で過ごしたり、仲のいい人同士集まって過ごしたりできるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こちらで用意してある、淡水外は、今まで家で使われていたものをそのままxって来て頂いている。本人が家のように居心地よく過ごせるように支援している、		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせて、移住環境が適しているか見直し、安全確保と自立へ配慮をしている。		